

技報の発刊に寄せて

工学部・工学研究科技術部
統括技術長 星野 善樹

ここ数年、技術職員にとっては、平成 14 年度における技術部組織改革の実施、平成 16 年度施行の独立行政法人化とそれに伴う名古屋大学全学技術部組織一元化の試行（全学技術センターの発足）と目まぐるしい変革期を迎えてきました。

本技術部は、平成 14 年度の「技術部組織改革実施の骨子」に基づき新生技術部としてスタートしてから早 2 年が過ぎようとしています。この間、大学の研究に求められる幅広い分野の技術支援に対応するため、技術部として合理的、体系的、かつ有機的に対処し、機能的、効率的に行い研究の技術的業務に責任と役割を果たして、少なからぬ一定の評価と成果が得られたものと確信しております。

また、平成 16 年 4 月 1 日から名古屋大学は、国立大学法人としてスタートしますが、これを期に全学技術組織の一元化に向けた組織改編が全学技術支援委員会において 2 年余りの歳月をかけ検討されてきました。全学技術センターの発足が決定され、本技術部も部局系技術支援室工学技術系に配置され試行的に実施される段取りとなりましたが、すでに技術部は、業務遂行にあたり自覚と責任体制の確立、高度な複合技術を持ち合わせた技術者集団としての経験により環境の変化にも充分に対応できうるものと期待しています。

さて、本年度の研修、技術研鑽活動は、法人化施行に伴う地震、防災等環境安全の整備や労働安全衛生法の適用に関する資格取得、あるいは特別教育の実施など、実施担当者はじめとして技術職員にとっては例年になく忙しい中で取り組んできました。その技術職員の取り組み方は、前述の組織改革以後、研修、研鑽や業務等に自らが積極的に企画、立案を行い他の技術職員と技術交流を行うことによる卓越した技術の蓄積と伝承に大いに役立つと共に、工学研究科に大きな貢献ができた意義深い内容であると考えています。今後、技術支援の多種多様化が求められる中でこれらの活動を通じて努力を怠ることなく技術部の存在価値を高めたいと思っています。

最後に、本技報（Vol.6）は、平成 15 年度における技術部業務活動の集大成としてまとめたものであり、今後の糧となるご意見やご助言を賜れば幸いです。

また、この「技報」を発刊するにあたり、多大なるご尽力とご支援を賜りました工学部・工学研究科技術部長、各評議員の方々をはじめとして、教官、事務部、その他関係方々の皆様には心より厚くお礼申し上げます。